

事務事業名		両毛救急医療圏二次救急医療参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり					担当組織	担当部	健康医療部	担当課	健康増進課
	政策	1 健康で安心して暮らせるまちづくり					担当係	地域医療係	担当課長名	川島紀昭	
	施策	2 地域医療体制の充実					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	2 救急・高度医療体制の充実					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	6881	一般	4	1	1	両毛救急医療圏二次救急医療推進事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S54年度～ 年度		根拠法令 条例等	医療法		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
								任意的事業・義務的事業		任意的事業	
								実施方法		直営	
								事業分類		支援事業	
								リーディングプロジェクト		該当なし	
								市長マニフェスト		1-8	

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

①手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
両毛医療圏において、救急時における手術や入院治療が必要な重症患者の受入れを行なっている二次救急医療を担う病院群輪番制病院(足利赤十字病院、佐野厚生総合病院)に対し、補助金又は負担金を支出している。 (H22より、事務局は、足利市健康増進課と佐野市健康増進課が2年交代で行なっている。) *両毛医療圏・・・県が定めている県内救急医療体制の10圏域の一つ *二次救急医療・・・手術や入院治療を必要とする重症救急患者 *病院群輪番制病院・・・地域内の病院群が共同連帯して、輪番方式により休日・夜間等における重症救急患者の診療の受入れに参加している病院			<市の活動> 二次救急医療運営費、設備整備費及び小児二次救急医療運営費負担金(運営費補助金、設備整備費補助金、小児救急運営費補助金)の佐野市分の支出。 輪番制病院の当番日における受け入れ患者実績の把握。 <団体の活動> 輪番方式により休日・夜間等における救急車等による直接搬送、又はかかりつけの診療所など初期救急医療機関から搬送されてくる重症救急患者の治療を行なった。							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			二次救急医療が受けられる医療機関数	箇所	2	2	2			
			休日・夜間日数	日	436	437	438			
②対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市民			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			市人口	人	123,182	122,582	121,522			
目的										
③意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
市民の救急時における医療不安を解消させる。二次救急医療病院輪番制病院の救急医療体制が円滑に行なわれる。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			二次救急医療機関の救急患者数	人	10,321	10,190	10,190			
			うち入院者数	人	1,887	2,024	2,024			
④結果(どのような結果に結びつきますか?)										
市民が緊急時に安心して適切な医療が受けられる。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			市内の医療体制に満足している市民の割合(市政に関するアンケート)	%	58.9	59.0	61.0	62.0	63.0	
			二次救急医療が受けられる医療機関数	箇所	2	2	2	2	2	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円	22,005					
	地方債	千円						
	その他	千円	19,844					
	一般財源	千円	15,592	17,808	19,647			
	事業費計(A)	千円	57,441	17,808	19,647	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金補助及び交付金(補助金)	57,441	負担金補助及び交付金(負担金)	17,808	負担金補助及び交付金(負担金)	19,647
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2		
	のべ業務時間	時間	192	48	48			
	人件費計(B)	千円	747	189	189	0	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	58,188	17,997	19,836	0	0	

事務事業名	両毛救急医療圏二次救急医療参画事業	担当部	健康医療部	担当課	健康増進課	担当係	地域医療係
-------	-------------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和54年3月に両毛地区広域行政推進協議会が設立された。救急患者のたらい回しなど、全国的に問題になり、体制を整える必要が出てきた。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	平成17年度から、これまで国・県から広域救急費の2/3の補助金が廃止となったため、県費上乗せ分以外について2市の負担となる。また、平成18年度から県費上乗せ分についても1万円の減額になった。三位一体により、公立病院の施設整備費が該当しなくなった。(市民病院が輪番制を休止中。) 平成25年度より、施設整備費県補助金の見直しにより、毎年交付ではなくなった。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	平成24年9月議会、平成23年12月議会等で市民病院の輪番制への復帰の要望が出ている。 輪番制病院より2病院体制への改善を求める要望が出ている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	二次救急医療病院の輪番制病院に補助金又は負担金を交付することで病院体制が整備され、市民が救急医療及び高度医療を安心して受けられることができ、地域医療体制の充実に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	救急時における市民の医療不安の解消と、良質な医療の提供を行なうことは、市民が安心して暮らしていくために重要かつ市の責務であり、妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	輪番制病院が円滑に行なわれることは、救急時等における医療不安を解消し、市民が安心して暮らしていけることであり、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案	救急医療の需要は年々高まる一方で、医療現場は慢性的な人材不足である。そのような状況で、財政的支援は必要であり、事業自体は補助金又は負担金の支出が主たる事業なので、成果向上の余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	二次救急医療の体制整備をするため、救急時の医師確保等費用がかかる。また、医療機器の整備についても高額であり、購入時には補助が必要のため、削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	両毛救急医療圏病院群輪番制病院運営費補助金及び小児救急医療支援事業運営費補助金交付要領に基づき、対象経費の基準額を設定して補助金又は負担金を交付しており、運営費の残りは足利赤十字病院及び佐野厚生総合病院の負担となる。また、治療費は、治療を受けた患者負担となる。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	市民の中で休日・夜間等における救急患者がいなくなったときに、この事業は終了できる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					